

おわりに

プロジェクトリーダー 准教授 土岐 篤史

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科は、独立研究科としては本邦では初めてとなる、高度な臨床心理士養成に特化した専門職大学院として、平成19年4月に設置された。本研究科は、従来の臨床心理士養成大学院で行われている附設の心理臨床相談室における学内実習に加え、教育・福祉・医療領域における学外実習を強化して教育課程に編成している。各関係方面からの惜しみない御協力と御支援をいただき、本年度は第3期修了生を輩出し、高い就職率を継続することができた。県内に就職する修了生も年々微増しており、今後ますます本研究科と地域における連携・協力が進むのではないかと、大いに期待するところである。

本事業は、全3年間の取り組みであり、地域に出向いて心理臨床的支援が可能な技能修得を目指す「実践型教育プログラムの」開発を行うという目的を有する。初年度である本年度は、地域の支援ニーズを探り、地域との連携を深める点にあり、次年度以降の活動を進める上での地域貢献が主眼であった。良質かつ継続的な地域貢献を展開するためには、我々専任教員および事業スタッフがそれぞれ研鑽を積み、特に地域に関する学びを続ける必要がある。

報告書にある通り、本年度は、鹿児島県内の各地域における現場の対人援助職の方々への講演会活動を主として展開してきた。これまで専任教員が関わってきた地域には、さらなる御厚意を戴いて、より専門的な講演会が開催できた。また、今回、初めてアプローチさせていただいた地域には、本事業の趣旨をよく理解していただき、貴重な時間と労力を割いていただき、講演会の準備を一から共に作り上げていただいた。講演会の主催をしていただいた、伊佐市福祉事務所、奄美市教育委員会、霧島市および霧島市すこやか保健センター、鹿児島動作法研究会、西之表保健所、社会医療法人慈生会地域活動支援センターうえるふえあの皆様に深く感謝申し上げます。奄美市教育委員会との連携には、法文学部経済情報学科の山田誠教授からお力添えをいただいた。NPO チャレンジドサポート奄美の向井扶美代表には施設見学のお世話をいただいた。その他、多くの関係機関の後援を得ることができた。また、各講演会開催に協力いただいた多くのボランティアの皆様にも感謝申し上げます。

さらに、地域支援の方法論を学ぶため、先進的な取り組みを行っている大学視察を行

う機会も得た。追手門学院大学心理学研究科の井上知子教授、中鹿彰准教授、溝部宏二准教授、神戸女学院大学人間科学研究科の國吉知子教授、石谷真一教授、小林哲郎教授、須藤春佳講師、奥田沙史美講師の先生方には、懇切丁寧な説明をいただき、惜しみない視察見学をさせていただいた。心より感謝申し上げます。海外視察先であるスウェーデンのストックホルム県 BUP, Karolinska Institutet, Stockholm University では、多くの示唆を得ることができた。仲介の労を執っていただいた Karolinska Institutet の吉武尚先生、コーディネーターをしていただいた BUP の Eva Serlachius 先生を初め、Olav Bengtsson, Per-Anders Rydelius, Sven Bölte, Harald Sturm, Noam Ringer, Anna Norlén, Moa Mannheimer, Ann Charlotte, Aiko Lundequist の諸先生方に深く感謝申し上げます。ストックホルム在住の大橋紀子氏には通訳だけでなく、現地でのマネジメントにお手伝いいただいた。

平成23年度も本研究科に引き続き御支援いただけるよう、関係各位の皆様に厚くお願いを申し上げます次第である。